

平成23年度病害虫発生予報第11号(2月予報)

<お知らせ> 平成23年3月末をもって、北部駐在は閉所となりました。
平成23年度病害虫発生予察技術情報第9号を発表しました。

今月のトピックス

キクわい化病(キク)

病原体 : *Chrysanthemum stunt viroid* (CSVd)

健全株

罹病株

罹病

健全

遺伝子検定

検定用品種「ミスルトー」の病徴

生態と被害

++ + 健全 罹病

遺伝子検定キット (RT-ICAN)による診断例

本病は、CSVd(キクわい化ウイルス)によって引き起こされる。病原体は、約350塩基の環状一本鎖RNAである。第一次伝染源は無病徴株を含めた病株で、苗購入に伴う持ち込みが多く、新品種の導入や親株の更新時にほ場に持ち込まれる。また、摘蕾、切り花、刈込みなどの作業に伴って刃物伝染が起こる。気温の上昇とともに感受性品種ではわい化症状が現れる。罹病株の病徴は、葉ではわずかに淡緑化し、茎との角度が小さくなり直立して生育する傾向があり、小型化する。草丈は、節間が短縮してわい化する。花は小型化、退色(特に赤色系の品種)、開花の早期化などがみられる。挿し穂は発根不良になる。生育障害の程度は品種によって大きく異なり、無病徴の品種も多い。

平成24年2月1日

沖縄県病害虫防除技術センター

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>